



2017「測量の日」特別企画

CONTENTS

1. 「測量の日」関連行事の実施	
・「測量の日」特別企画～遊んで学んで地図と測量の世界 2017～を開催-----	2
・平成 29 年度「測量の日」における功労者感謝状贈呈-----	3
・第 46 回国土地理院報告会を開催-----	5
・「日本水準原点」を一般公開-----	6
2. タイ王国との電子基準点網整備協力の推進-----	7
3. 第 66 回利根川水系連合・総合水防演習に参加-----	8
4. 第 58 次日本南極地域観測隊帰国報告-----	9
5. 第 215 回地震予知連絡会概要-----	10
6. 国土地理院 ことばのミニ辞典 ～第 11 回「地形分類」～-----	11
7. 平成 29 年春の叙勲-----	12
8. 5 月の報道発表・7 月の主な行事予定-----	12

「測量の日」関連行事の実施

●「測量の日」特別企画～遊んで学んで地図と測量の世界 2017～を開催

6月4日、国土地理院「地図と測量の科学館」（つくば市）において、『「測量の日」特別企画～遊んで学んで地図と測量の世界 2017～』を開催し、1,700名を超える皆様にご来場いただきました。

「測量の日」特別企画は、国土地理院が提供している様々な地理空間情報を分かりやすく紹介するとともに、子どもから大人まで楽しみながら地図と測量に関する体験ができる企画で、6月3日の「測量の日」にあわせて毎年6月の第一日曜日に開催しています。

今年は、「南極を測る」「西之島を測る」をテーマに、南極や西之島で実際に測量を行った職員が講演を行ったほか、地図のギャラリーでは「どこでも測る測量士!!～極寒の南極から噴火した西之島まで～」と題して、南極の地図や西之島が噴火で大きくなっていく様子が分かる写真などを展示しました。

また、本物の南極地域観測隊員用の防寒服を着ての撮影や西之島の溶岩をもって撮影ができる特設の記念撮影ブースでは、多くの皆さんが実際に現地に行った気分で記念撮影を楽しんでいました。

「南極の氷」コーナーでは、数万年前の空気の気泡がつまった南極の氷からでる気泡が「パチパチ」と弾ける音を楽しめる方や、実際の氷に触れて歓声を上げる子どももいました。



南極の氷にさわって歓声を上げる子どもたち

このほか、「日本列島一筆書き」にチャレンジしてワクワクしながら採点を待つ子どもたちや、実際に距離と角度を測る「測量体験コーナー」では、測量機器を真剣にのぞき込む子どもたちの顔も見ることができました。



測量士になった気分！

一方、屋外では、「測量用航空機くにかぜの機内公開」や、経緯度の1秒が体験できる「GPSを使って宝さがしに挑戦!」、「地図記号クイズラリー（測量の日バージョン）」など体験型イベントにたくさんの方々が参加されました。



参加賞のカード集めは子どもたちに大人気！

参加者アンケートには、「楽しかった。来年もぜひ来たい。」といった声をたくさんいただき、地図と測量の世界に十分に触れていただけた一日となりました。



来年もまた会いましょう！

●平成 29 年度「測量の日」における功労者感謝状贈呈

国土地理院では、測量や地図に対する国民の一層の理解と関心を高めることを目的に、平成元年度から、測量や地図等の地理空間情報に関する普及・啓発に顕著な功績のあった個人又は団体に対し国土地理院長から感謝状を贈呈しています。

平成 29 年度は、一氏昭吉氏、宮城豊彦氏、一般社団法人宮崎県測量設計業協会、大分市小学校教育研究会社会科部会及び長久保赤水顕彰会の 2 個人と 3 団体に感謝状を贈呈しました。



長久保赤水顕彰会会長 佐川春久氏(前列中央左)、同会顧問 長久保源蔵氏(前列中央右)

(6 月 4 日国土地理院本院(つくば市)の贈呈式)

—— 功労者の紹介 ——

【 個人 】

◆^{いちうじ}一氏^{しょうきち}昭吉 氏

平成 18 年度から GIS 導入を推進し、「かどマップ」の構築や基盤地図情報スパイラルアップに貢献されるとともに、「GIS 大縮尺空間データ官民共有化推進協議会」の一員として、官民連携の推進及び地域の地理空間情報活用の推進、普及・啓発に貢献されています。



一氏昭吉氏(中央)と鹿野参事官(右側)、梶川近畿地方測量部長

◆宮城 豊彦 氏

東日本大震災以前より、ハザードマップとGISを活用した自然地理・防災教育などを通じた地域住民の防災意識の向上に資する取組を行い、防災・減災における地理空間情報の重要性など、地理空間情報の普及・活用促進に貢献されています。



宮城豊彦氏（右）と山口東北地方測量部長

【団体】

◆一般社団法人 宮崎県測量設計業協会

URL : <http://www.mspa.or.jp/>

宮崎県内の工業高校や農業高校においての測量実技講習会の開催や、インターンシップの取組など、将来の測量技術者育成に寄与するとともに、測量設計業界の社会的地位の向上にも大きく貢献しています。



宮崎県測量設計業協会会長（右）と齋藤九州地方測量部長

◆大分市小学校教育研究会社会科部会

平成19年より毎年開催されている「大分市児童地図作品展」は、地図への親しみを深めるとともに、児童の地図利用及び地図作成能力の向上に寄与しており、このことは、地域における地理・地図教育の発展に大きく貢献しています。



大分市小学校教育研究会社会科部会会長

◆長久保赤水顕彰会

URL : <http://nagakubosekisui.org/>

伊能忠敬の「大日本沿海輿地全図」より40年以上前に緯線と方角線が入った「改正日本輿地路程全図」を作製し出版した長久保赤水の偉業を国内外に広く伝える活動をととして、地図の重要性を広める活動など地図や地理に関する普及・啓発に多大な貢献をしています。



長久保赤水顕彰会、地球広場見学の様子

(総務部)

●第 46 回国土地理院報告会を開催

6 月 7 日、第 46 回国土地理院報告会を日経ホール（東京都千代田区）において開催しました。

報告会は、その時々課題に対する国土地理院の最新施策を紹介するとともに、測量や地図に関連する分野の第一人者の方々に特別講演をいただくということで、昭和 47 年から毎年開催しています。

今年は、「地理空間情報の未来を展望するー地理空間情報活用推進基本法制定 10 年ー」をテーマに、同法に関連したもののほか、昨年発生した熊本地震、引き続き活発な火山活動がみられる西之島など、近年注目されている事項について、最新の取組を報告しました。

また、地理空間情報分野の第一人者である東京大学空間情報科学研究センターの柴崎亮介教授より、「地理空間情報活用推進基本法制定 10 年ーこれまでの総括と未来展望ー」と題した、特別講演をいただきました。非常にご多忙な先生の貴重なご講演ということもあり、満員の参加者が熱心に聴講されていました。

さらに、会場内には、国土地理院の各種取組を紹介する 12 枚のパネルや西之島の溶岩などを展示しました。

加えて、本年 3 月に公表した報告書「国土を測り、未来を描く ～測量・地図の「力」と「可能性」を伝える～」でも、広報や教育の重要性が改めて指摘されたことなどを受け、本報告会を測量 CPD 学習プログラムとして申請し、本年より同プログラムの対象となりました。

今回の報告会は、民間企業、研究関係、教育関係、行政関係など幅広い分野から 573 名のご参加をいただき、大盛況のうちに終えることができました。参加者の皆様に深く御礼申し上げます。また、非常に多くの皆様のご登録をいただきましたので、早々に定員に達し締め切らざるを得ませんでした。参加できなかった方々に深くお詫びいたします。

来年も、同様の時期に同じ会場で報告会を行うことを予定しております。ここ数年、多くの登録をいただいております。来年も、ホームペー

ジ等にて 4 月下旬頃案内させていただく予定ですので、参加希望の方はお早めにご登録下さい。



柴崎亮介氏による特別講演



会場の様子

今回の報告会の資料については、以下 URL にてご覧いただけます。残念ながら、参加できなかった方など、ご関心のある方はぜひご覧下さい。

(<http://www.gsi.go.jp/REPORT/HAPPYYOU/main46.html>)。

国土地理院では、報告会のほか、「測量の日」特別企画など、さまざまなイベントなどを通じて、皆様にその施策を知っていただくための取組を行っています。これらを通じて、「国土を測る」活動が少しでも皆様に身近になりましたら、嬉しい限りです。

(企画部)

●「日本水準原点」を一般公開

5月24日、土地の高さの基準となっている「日本水準原点」を公益社団法人日本測量協会の協力を得て一般公開し、710名の皆様にご来場いただきました。

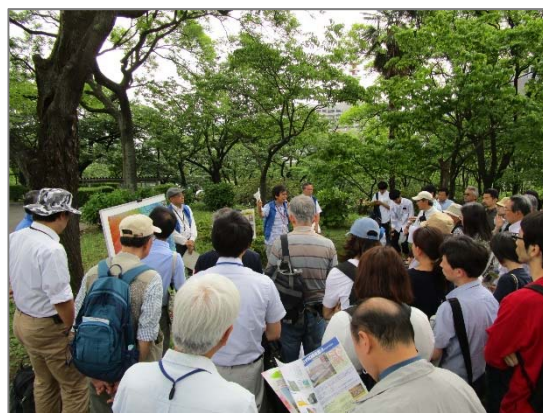
関東地方測量部では、測量の日記念行事として、5月24日、午前10時から午後4時までの間、「日本水準原点」の一般公開を行いました。当日は天候にも恵まれ、熱心な見学者は、10時前から会場を訪れ設置準備中のパネルに見入られていました。



パネルに見入られる来場者

一般公開では、水準原点を収容する建物（標庫）の開放、水準原点設置当時の周辺写真、位置図、構造図、水準測量などのパネルの展示、レベルの望遠鏡（倒像）による水晶目盛板の視準、水準原点に関するミニ講座を4回実施し、高さの基準としての役割や重要性などを説明しました。毎回好評を得ている水準原点に関するミニ講座は、高さの測量の歴史と水準原点標庫の文化財としての見どころなどについて紹介しました。

会場には、測量・地図愛好家のほか、授業の一環として見学に来られた地理学専攻の大学生、測量の経験があるベテランの方、修学旅行生や国会議事堂見学ツアーの後に来られた方など、710名の皆様に御来場いただきました。



日本水準原点を紹介したミニ講座の様子

その中には学校の先生もおられ、「授業で地理を教えているがこのような機会を利用して知識の幅を広げ、生徒たちに伝えていきたい」と、職員の説明に熱心に耳を傾けられていました。

また、めったに見られない建物の開放や水準原点の水晶目盛板など写真を撮っている方が多く見受けられました。



日本水準原点
（建物（標庫）の開放）

これまで以上にたくさんの方に興味を持っていただいたことは、主催者として非常に嬉しく思うとともに、引き続き測量・地図の重要性について理解が深まるよう取り組んでまいります。

（関東地方測量部）

日本水準原点とは

日本水準原点は、明治24年に当時の参謀本部陸地測量部によって設置され、現在も日本の土地の高さの基準として使用されています。

タイ王国との電子基準点網整備協力の推進

6月8日、タイ王国科学技術大臣が国土地理院を視察されました。また、6月7日、国土交通省はタイ王国との電子基準点網整備の協力覚書を締結しました。

6月8日、タイ王国のアチャカー・シーブンルアン科学技術大臣（以下「アチャカー大臣」という。）が国土地理院を訪問し、電子基準点や地図と測量の科学館を視察されました。友好的な雰囲気の中、国土地理院からは院長、企画部長、測地観測センター長、地理空間情報国際標準分析官ほかアチャカー大臣をお迎えし、我が国の電子基準点の管理・運用体制や利活用事例を説明し、その後、地球ひろばや日本列島空中散歩マップを紹介しました。



来訪したタイ王国代表团と国土地理院職員



地球ひろばを視察されるアチャカー大臣（中央）

また、本訪問に先立つ6月7日には、東京で第3回日タイ・ハイレベル合同委員会が開催されました。会合の議題の一つとして、衛星測位技術及び地理空間情報技術の利点を最大限活用し、高度情報社会の発展を促進するため、電子基準点網の統合データセンターをタイ王国に整備するための協力の重要性が確認されるとともに、我が国国土交通省とタイ

王国科学技術省との間で、衛星測位技術を活用した「電子基準点網の整備に関する協力覚書」が締結されました。

< 覚書概要 >

覚書名：

電子基準点網の整備に関する協力覚書

署名者：

日本側 石井 国土交通大臣

タイ側 アチャカー 科学技術大臣

協力内容：

タイ王国における、統合電子基準点網の導入、統合データセンターの構築及びデータ解析、衛星測位と電子基準点観測データの産業利用等に関して、関係者によるワークショップや会議、現地調査等を通じて協力

国土地理院では、平成28年5月からタイ王国に JICA 専門家として衛星測位シニアアドバイザーを派遣するなど、電子基準点整備に関する日タイ協りに積極的に参画しています。今回のアチャカー大臣の来訪及び協力覚書の締結により、日タイの電子基準点網構築の協力がさらに進展することが期待されます。国土地理院は、我が国の電子基準点網を管理、運用する機関として、今後も、タイ王国の関係機関への技術的な支援を進めてまいります。



実際の電子基準点をタイ王国代表团に解説

（企画部・測地観測センター）

第 66 回利根川水系連合・総合水防演習に参加

5 月 20 日、第 66 回利根川水系連合・総合水防演習（演習本部総裁に国土交通大臣、副総裁に埼玉県知事、加須市長）が開催され、村上院長が本部に列席し、演習に測量用航空機「くにかぜⅢ」と国土地理院ランドバードが、展示に関東地方測量部が参加しました。

利根川水系連合・総合水防演習は、昭和 22 年のカスリーン台風による未曾有の被害を教訓として昭和 27 年に開始され、国土交通省及び関東 1 都 6 県並びに開催市町村の主催により、毎年利根川水系の河川で開催されています。今回は、カスリーン台風から 70 年の節目にあたり、カスリーン台風による利根川の決壊口付近の埼玉県加須市新川通の利根川右岸が会場となりました。会場では、実践的な水防訓練や救出・救護訓練に加え、建設機械の操作や降雨体験車による体験コーナーや地元物産展など家族で楽しめる催しも多数行われました。

開会式では、国土地理院職員 7 名が昨年に作成した国土地理院の旗を掲げ、少人数ながら各団体に見劣りしない息の合った入場行進を披露しました。



開会式

救出・救護訓練では、測量用航空機「くにかぜⅢ」が会场上空を飛行するのにあわせ、国土地理院ランドバード（以下「GSI-LB」という。）の UAV が河川水面上を飛行しました。大型スクリーンでは、GSI-LB の UAV が離陸する場面や操作している場面、くにかぜⅢの災害時の活動が紹介さ

れ、多くの方が会场上空、水面上、スクリーンを熱心に見入っていました。



演習を映す大型スクリーン

関東地方測量部の展示ブースでは、一昨年の関東・東北豪雨災害の浸水図、カスリーン台風被災前後の空中写真、会場周辺の過去から現在までの地形図や最新のオルソ画像等をパネル展示したほか、国土地理院のウェブ地図「地理院地図」や「国土交通省ハザードマップポータルサイト」の紹介、UAV 動画の放映を行いました。当日は、会場全体で約 14,000 名の来場者があり、関東地方測量部の展示ブースも多くの方にご来場いただきました。



展示ブース

国土地理院では、引き続き防災関係機関との連携の強化、災害対応能力の向上及び防災教育・啓発を図るため、このような合同演習に積極的に参加していきます。

（関東地方測量部）

国土地理院は第 1 次日本南極地域観測隊から今回の第 58 次観測隊まで途切れなく隊員を派遣しています。今回参加した第 58 次の夏隊の派遣期間は、平成 28 年 11 月 27 日から平成 29 年 3 月 23 日までの 117 日間と長期間にわたるものでした。昭和基地開設 60 周年という記念すべき観測隊の参加報告を記します。

南極までは、飛行機でオーストラリアに行き、その後海上自衛隊が運航している「しらせ」に乗船して行きます。オーストラリアから南極までは1ヶ月もかかります。

船内では、ほかの研究者が行う海洋観測の支援や研究内容を説明する「しらせ大学」などのイベントへの参加をしながらの生活になりました。



南極観測船しらせ

南極に到着してからの国土地理院の仕事は、測地定常観測です。具体的には「GNSS測量」、「重力測量」、「空中写真測量」などを行いました。また、昭和基地で国際GNSS事業（IGS）の一翼を担うGNSS連続観測点を運用しており、このデータは全世界で活用されています。

現地の作業は昭和基地から遠く離れた露岩域（雪のない岩場）で観測し、雪上車やテントでチームの隊員と共同生活をしました。



GNSS 観測機器と雪上車

GNSS観測機器や三脚などを背負子やザックにつめて山を登って基準点を設置していくのですが、南極といえ汗だくの作業となりました。しかし、自分の設置した基準点越しに見る景色はとても素晴らしく、ずっと眺めていたいと思うくらいでした。

また、最新の地形図作成のため、ヘリコプターを使用した空中写真撮影や地上レーザを使用した詳細な地形情報の取得も行ってきました。

そして、南極生活での楽しみのひとつが食事です。夏隊員は、しらせの調理隊員に作ってもらった食事を頂きます。金曜日は「カレー」、「9」の付く日は「ステーキ」と船の中でも曜日や日にちを思い出せるような工夫もされています。また、ペンギンなどの野生動物との出会いも楽しみの一つでした。



アデリーペンギンの営巣地

今回、南極地域観測隊において行った観測は、国土地理院の職員でいたからこそ出来た貴重な体験でした。

このような素敵な機会を与えていただいたこと、また多くの方々から多大なご支援を頂いたことについて、この場をお借りして御礼申し上げます。

（応用地理部）

第 215 回地震予知連絡会概要

5 月 19 日、九段第 2 合同庁舎（東京都千代田区）において第 215 回地震予知連絡会が開催されました。以下その概要について報告します。

第 25 期地震予知連絡会の体制

前回で第 24 期の委員の任期が満了し、今回から第 25 期の委員の任期が始まりました。会長には平原和朗委員が選出され、平原会長により、松澤暢委員と山岡耕春委員が副会長に指名されました。

地殻活動モニタリングに関して

- ・国内で 2017 年 2 月から 2017 年 4 月までの 3 か月間に発生した M5 以上の地震は 23 回でした。
- ・平成 28 年（2016 年）熊本地震の余効変動が広域にわたって継続していることが GNSS 連続観測により検出されました。

重点検討課題「海域モニタリングの進展」

海域における地震・津波・地殻変動モニタリングについての報告と今後の進展の方向性についての議論が行われました。

1. 防災科研が運用する地震津波海域観測網 -DONET & S-net-（防災科学技術研究所）

南海トラフ及び日本海溝沿いに展開される海域観測網 DONET 及び S-net の運用状況について報告されました。この観測網によって 2016 年 8 月 20 日発生の三陸沖地震等で、詳細な震源分布の把握や津波の観測ができたことが報告されました。

2. 南海トラフ長期孔内観測システムによる観測（海洋研究開発機構）

南海トラフの海底下で、地震・地殻変動・孔内間隙水圧等の観測を行う「長期孔内観測システム」の開発と設置状況について報告されました。現在は東南海地震震源域の 2 か所に設置されており、三重県南東沖の地震では、余効変動や浅部ゆっくり滑りが検出されたことが報告されました。

3. GPS-A 海底地殻変動観測のこれまでの進展と今後の展望（海上保安庁）

海底の絶対位置を測定する GPS-音響測距結合方式（GPS-A）による海底地殻変動観測の現状について報告されました。これまでの観

測の結果、東北地方太平洋沖地震後の余効変動の検出や南海トラフのプレート間固着の推定といった成果が得られていることが紹介されました。

4. 海底間音響測距観測の現状について

（東北大学災害科学国際研究所）

音波の往復時間を計測することで距離の変化を測る海底間音響測距観測の現状や今後の展開について報告されました。海底間音響測距は GNSS 音響計測と比べると観測精度が高く、1km の基線で 2-5mm の繰り返し観測精度が得られることが示されました。

5. 海域稠密観測時代の津波即時予測研究とその展望（東京大学地震研究所）

数値シミュレーションによる予測結果を稠密な観測網の津波記録と同化して現在時刻の津波波動場を直接推定する「津波データ同化法」の適用により、津波の到達までに波動場を再現できることが示されました。

6. 海底データを用いたモデル計算：地震動即時予測 -“揺れの数値予報”の適用例-

（気象庁気象研究所）

海底地震計のデータを利用して揺れの分布を予測すると、陸上に揺れが到達する前に揺れを予測できることから、特に沿岸に近い地域で効果があることが示されました。

今回の重点検討課題では、「首都圏直下地震」について議論される予定です。



会議の様子

その他の詳細は以下からご覧いただけます。

<http://cais.gsi.go.jp/YOCHIREN/activity/215/215.html>

（地理地殻活動研究センター）



ケンタ君

地形（ちけい）を分類するのは何のため？

地面のデコボコやその広がり調べて、似たもの同士に分けることで、役に立つことがたくさんあるんじゃ。



マップ博士

地形分類を見ることで、その土地がどのようにできたか、どんなふうに使えばいいかがわかります。たとえば川の近くの地形分類を例に見てみましょう。

下の左の図を見てください。水辺近くの土地は全体的に低くて平らですが、実は普段気付かないようなデコボコがたくさんあります。これらは、洪水のときに、川から運ばれてきた土砂がたまったり、川そのものが流れを変えたりしてできたものです。洪水がおこって川の水が周囲の土地にあふれはじめると、洪水によって運ばれてきた土砂が粒の大きいものから順に積もり、周りより小高い地形である「自然堤防（しぜんていぼう）」をつくります。一方、川から遠くなると、洪水で運ばれて積もる土砂は粒の小さな泥だけになります。このような場所は周りより低い「後背湿地（こうはいしっち）」とよばれる地形になり、土が軟らかくドロドロしていて、水はけはよくありません。

昔から人々は、このような川が作った地形を上手に使ってきました。人々が家を建てる場所を選んだのは、川に沿って小高く水はけのよい自然堤防でした。また、後背湿地は水を引きやすいので、田んぼに使いました。ただし最近では、後背湿地に土を盛って（盛土地（もりどち））、そこに家を建てることもあります。盛土地は、土を盛る前に比べると洪水の被害は受けにくいのですが、土地が軟らかいため、地震のときに揺れやすい特徴があります。



（国土交通省青森河川国道事務所の写真を編集）

図：同じ場所の川沿いの地形分類（左図）と土地利用（右写真）

このように、土地のでき方や性質のちがいを明らかにする「地形分類」は、その土地を使う時に気をつけることを教えてくれます。土地のでき方と自然災害リスクがわかる地図については、ベクトルタイル「地形分類」—身の回りの土地の成り立ちと自然災害リスクがわかります—（http://www.gsi.go.jp/bousaichiri/lfc_index.html）に詳しく説明しています。この地図は、国土地理院のウェブ地図「地理院地図」にて公開していますので、ぜひ見てみてくださいね！

（応用地理部）

平成 29 年春の叙勲

4 月 29 日、平成 29 年春の叙勲受章者が発表されました。

国土交通省関係の叙勲受章者は 320 名、うち国土地理院関係者では、3 名の方が受章されました。

勲章伝達式は、5 月 10 日に東京プリンスホテルにおいて行われ、大野国土交通大臣政務官から勲章と勲記が伝達され、その後、皇居において天皇陛下に拝謁されました。

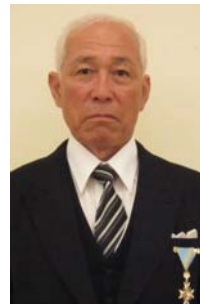
(総務部)



瑞宝双光章
佐藤 春治 氏
元 主任監査官



瑞宝双光章
篠原 茂明 氏
元 測図部
管理課長



瑞宝双光章
板東 與實 氏
元 地理情報部
業務課長

5 月の報道発表

11 日	6 月 3 日「測量の日」関連行事を全国各地で実施等	総務部・企画部、関東地方測量部、中部地方測量部、近畿地方測量部、中国地方測量部
12 日	指名停止措置について	総務部
18 日	地球の形の測り方をご存知ですか？ ～世界のトップ研究者が、地球の形を正確に測るしくみについてお話しします～	測地部
22 日	東北地区における「測量の日」関連行事の開催	東北地方測量部
22 日	「測量の日」関連行事 地図パネル展（金沢市）を実施	北陸地方測量部
29 日	四国地区における「測量の日」関連行事開催	四国地方測量部
29 日	測量体験学習や測量技術に関する講演会を開催	北海道地方測量部

記事の内容は、国土地理院ホームページ>2017 年 報道発表資料

(<http://www.gsi.go.jp/WNEW/PRESS-RELEASE/press-2017.html>) をご覧ください。

7 月の主な行事予定

3/15～7/23	企画展「地震災害を考える」
6/6～9/18	地図と測量の科学館ギャラリー展 「どこでも測る測量士！！～極寒の南極と噴火した西之島～」
3 日	第 1 回広報推進協議会
3 日	平成 29 年度第 1 回研究評価委員会
5 日	第 1 回地図の利用手続のあり方検討部会
7 日	第 1 回地理教育支援検討部会
11 日	地震調査委員会
24 日	地震防災対策強化地域判定会
28 日	第 52 回海岸昇降検知センター総会

国土地理院広報は、国土地理院ホームページ>広報誌>国土地理院広報

(<http://www.gsi.go.jp/WNEW/koohou/index.html>) に掲載しています。

発行 国土交通省国土地理院
Geospatial Information Authority of Japan

〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番
TEL 029-864-6255
FAX 029-864-6441

連絡先：総務部広報広聴室
国土地理院ホームページ
<http://www.gsi.go.jp/>